

神戸市北区
50年のあゆみ



1973

2023

KOBE KITA
50th ANNIVERSARY



50周年をむかえて

北区は1973年(昭和48年)8月に兵庫区から分離し、2023年(令和5年)8月1日で区制50周年を迎えました。六甲山の北側に位置しており、面積は240.29平方キロメートルで全市面積の約44%をしめ、神戸市9区のなかで1番広い区です。ニュータウンなどの住宅地域と、懐かしい田園風景を今に残す農村地域が調和しており、人口は分区当初と比較すると現在約1.8倍に達しています。

北区には、古い歴史を伝える名所旧跡や貴重な文化遺産である「農村歌舞伎舞台」、国指定重要文化財の「石峯寺(しゃくぶじ)」などがあり、桜や紅葉の名所も多く四季折々に様々な景観を楽しむことができます。

また、人と緑のふれあいの場や都市と農村の交流の場がたくさんあります。地元で採れた新鮮な野菜や米、花などの直売所である「道の駅 淡河」「道の駅 神戸フルーツ・フラワーパーク 大沢」、自然に癒される「森林植物園」、老若男女問わずのびのびと楽しめる「しあわせの村」など、様々な施設が多くの方に広く親しまれています。

そして忘れてはいけない北区の魅力といえば、「有馬温泉」です。六甲山の美しい山並みに抱かれた有馬温泉は、日本最古の温泉のひとつに数えられ、太閤秀吉がこよなく愛したことで有名です。「金の湯」「銀の湯」などの温泉や歴史、文化、旅館などを目当てに国内外問わず多くの観光客でにぎわう、神戸を代表する観光地になっています。

今年は、北区制50周年の節目の年です。改めて北区の魅力やすばらしさを感じていただけるように、「北区50年のあゆみ」では、区民の皆さまとともに歩んできた北区の50年を年表で振り返るとともに、北区の成り立ちや懐かしい風景、魅力あふれる写真、うわさにしたくなる話題などを紹介しています。

2023年8月1日

北区制50周年記念事業の終了にあたって

北区制50周年を迎え、地域・民間事業者・行政がこれまで以上に協力しあいながら、北区が有する価値や資源をより一層魅力的なものに育てていくために、2023年(令和5年)3月のオープニングイベントを皮切りに、約1年間、たくさんの「北区制50周年記念事業」を実施してきました。その取り組みを北区に関わる皆さまに広く伝えるために、北区制50周年記念事業の内容を追加して紹介しています。北区のこれからの50年を育てていくために、お役に立てることを祈念しております。

2024年2月吉日

目次

50周年をむかえて	P01
北区の歴史を振り返る HISTORY OF KOBE KITA 1947-2023	P02
北区の成り立ちを辿る歴史と懐かしい風景	P05
キタールさんセレクト フォトコンテスト2021-2022	P11
北区制50周年記念事業	P13

－ 北区の歴史を振り返る － HISTORY OF KOBE KITA 1947-2023

昭和22年 1947

- 有馬郡有馬町、有野村、武庫郡山田村を兵庫区に編入(現在の有馬町、有野町、山田町)

昭和26年 1951

- 有馬郡道場村、八多村、大沢村を兵庫区に編入(現在の道場町、八多町、大沢町)

昭和30年 1955

- 有馬郡長尾村を兵庫区に編入(現在の長尾町)

昭和33年 1958

- 美囊郡淡河村を兵庫区に編入(現在の淡河町)

昭和46年 1971

- 「神戸市行政区再編審議会」より北区新設の必要性を答申

昭和48年 北区誕生 1973

- 北区誕生(人口116,739人)
- 下谷上農村歌舞伎舞台で播州歌舞伎を上演(北区誕生記念)
- 北区社会福祉協議会創立

昭和49年 1974

- 第1回きたきたまつり開催(鈴蘭公園)
- 第1回区民運動会開催(大池中)
- 北区民センターオープン

昭和50年 1975

- 県道神戸三田線の小部トンネル、県道小部明石線の藍那トンネル開通
- 山田町のうち大字藍那、小河が本区に編入

昭和51年 1976

- 新神戸トンネル開通

昭和52年 1977

- 山田出張所が松が枝町で業務開始

昭和53年 1978

- 山田町衝原地区開・解村式

昭和54年 1979

- 箱木千年家(国指定重要文化財)の移築復元完成
- 下谷上農村歌舞伎舞台1977年全焼から修復完成

昭和56年

- 県道小部明石線全線開通

1981

昭和58年

- 神戸青少年公園一部オープン
- 六甲北有料道路(唐櫃～吉尾)開通

1983

昭和61年

- 北区の花が「すずらん」と「菊」に決定

1986

昭和60年

- 神鉄岡場駅高架化工事完成

1985

昭和59年

- 山麓バイパス開通

1984

昭和63年

- 北神急行開業、市営地下鉄と相互直通運転開始
- 中国自動車道の神戸三田インター開通
- 第2新神戸トンネル開通

1988



平成2年

- 国道428号線福地トンネル開通
- 阪神高速道路北神戸線が箕谷(日の峰)まで延伸
- 神出山田自転車道開通

1990

平成元年

- しあわせの村オープン

1989



平成3年

- 北区の人口が20万人を突破

1991

平成5年

- 北神行政サービスセンターオープン(北神支所の前身)
- 神戸フルーツ・フラワーパークオープン(2017年に道の駅として再オープン)

1993



平成6年

- すずらんホールオープン

1994



平成7年

- 阪神・淡路大震災発生(区内:死者13人、全半壊3,411棟)
- 北神中央線全線開通

1995

平成11年

- 長尾町で「サイサンアミノドン」の化石発見

1999



平成12年

- 北神戸田園スポーツ公園一部オープン

2000



平成13年

- 有馬温泉に太閤橋が完成
- 有馬温泉「銀の湯」オープン

2001



平成15年

- 神戸市初の道の駅が淡河町にオープン

2003



平成23年

- 北神市民センター(ありまホール)オープン

2011



平成28年

- 国営明石海峡公園神戸地区 あいな里山公園オープン

2016

平成29年

- 北神支所開設 ● キーナの森オープン
- 北区初の里づくり拠点施設「淡河宿本陣跡」オープン(2023年現在:区内12か所)

2017



平成30年

- 北区役所が鈴蘭台駅前に移転

2018



平成31年・令和元年

- 北神区役所開設
- 北区初のストリートピアノを鈴蘭台駅に設置(2023年現在:区内3か所)
- 「こべっこあそびひろば岡場」オープン

2019



令和2年

- 区内全7か所の連絡所を出張所に格上げ ● 北神急行市営化
- 北区初の「BE KOBE」モニュメントをつくはら湖に設置(2023年現在:区内2か所)
- 「おやこふらっとひろば北」オープン ● 市内で新型コロナウイルス感染確認

2020

令和4年

- 神戸三田線 有馬口トンネル開通

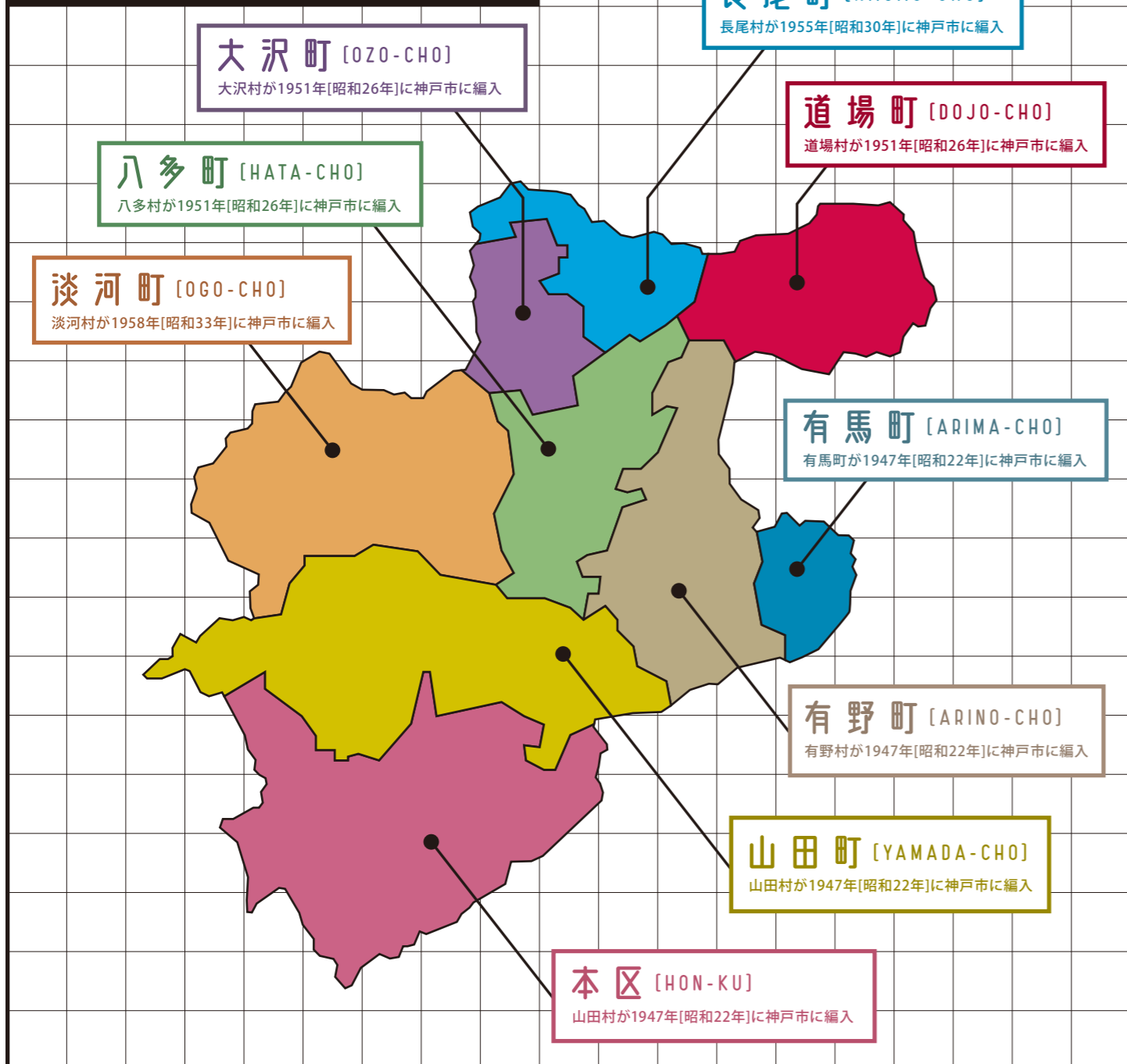
2022

令和5年 北区制50周年

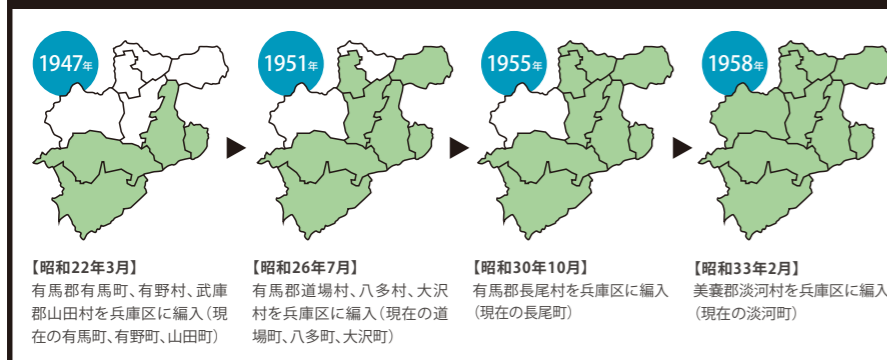
- 北区制50周年
- 北区初の義務教育学校「八多学園」開校

2023

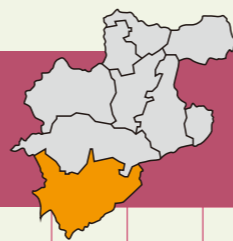
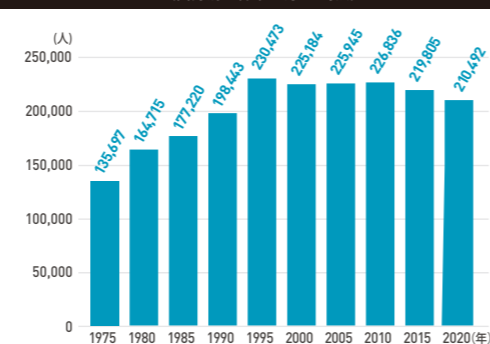
北区の成り立ちを辿る歴史と懐かしい風景



区域の変遷



北区総人口の推移



本区 [HON-KU]

鈴蘭台から始まった北区南部エリアの中心地

北区の南部、鈴蘭台を中心とした地域は神戸市全域から見るとほぼ中央に位置し、北区の中では「本区」と呼ばれています。鈴蘭台エリアは、北区が誕生するよりもずっと昔、1928年(昭和3年)に神戸有馬電気鉄道(現在の神戸電鉄)の開通にあわせて整備が始まりました。

1950年代後半から1960年代にかけて、鈴蘭台駅周辺の住宅団地開発とともに、甲栄台・若葉台などの北鈴蘭台駅周辺、北五葉・南五葉・君影町・星和台などの西鈴蘭台駅周辺、緑町・広陵町・筑紫が丘などの山の街駅周辺が次々と開発され、大規模な住宅団地が形成されました。

本区には基幹行政施設や商業施設のほか、「しあわせの村」、「森林植物園」、「あいな里山公園」などの自然を活かした施設が設置されています。また、2018年には鈴蘭台駅前の再開発がすすみ、駅直結型の商業施設(ベルスト鈴蘭台)のビルの中に、北区役所が移転しました。

今後も新北文化センター・図書館・児童館などの新施設の建設や区画整理事業などが計画されており、ますますの発展が期待されています。



昭和40年代前半頃の鈴蘭台駅前



鈴蘭台駅前



山田町 [YAMADA-CHO]

千年の歴史を有する伝統と自然のまち

山田町は、南は六甲山系、北は帝釈・丹生山系に挟まれた谷筋にある山田川(志染川)流域に開けた地域です。千年以上昔から京都から西に向かう主要な街道として栄えたといわれており、六條八幡神社の神宮寺である「三重塔」、無動寺の境内にある「若王子神社」、現存する民家建造物の中では日本最古といわれる「箱木家住宅(箱木千年家)」と国指定重要文化財が3つ残っています。六條八幡神社では、市内で唯一「流鏝馬(やぶさめ)神事」が今も続けられています。

1960年代後半から、東部の神戸電鉄沿線における住宅団地の開発、「新神戸トンネル」、「阪神高速北神戸線」、「北神急行」などの交通網の整備により発展。西部は今でも自然豊かな農村地域が残っており、2020年には衝原湖の湖畔に「BE KOBE」モニュメントの設置、2023年から「神戸登山プロジェクト」による登山道の整備など、シェアサイクルやトレイルなど、自然環境を活かしたアウトドア事業の推進に力を入れています。



1901年 明治34年 山田村役場



六條八幡神社の流鏝馬

BE KOBE

有馬町 [ARIMA-CHO]

太閤秀吉が愛した温泉の名所

有馬町は、太閤秀吉がこよなく愛した温泉地として全国的に有名な有馬温泉を中心とした地域です。歴史の深い有馬町には、「温泉寺」「極楽寺」「念仏寺」「湯泉神社」「稲荷神社」などの由緒ある寺社が現存しており、温泉寺と善福寺の彫刻や湯泉神社の絵画は、国の重要文化財に指定されています。また、1月の「入初式」、11月の「有馬大茶会」などの伝統行事も行われています。

観光スポットとしては、太閤秀吉にまつわる「ねね橋」や「太閤の湯殿館」、三大公園といわれる「瑞宝寺公園」「鼓ヶ滝公園」「愛宕山公園」、日本三名泉・日本三古泉の有馬温泉を楽しめる日帰り温泉「金の湯」「銀の湯」、「有馬の工房」などがあり、四季を通じて数多くの観光客で賑わっています。



昭和初期 有馬温泉



有馬温泉 金の湯

道場町 [DOJO-CHO]

歴史と豊かな自然が共存するまち

道場町は、古くから栄えてきた歴史と伝統のあるまちです。町内各所からは古代の土器や遺構が発見され、多くの人々が居住していたと推測されます。また、松原城址（通称：たんぼぼ城）や「塩田八幡宮」、「鎬射寺」などの伝統ある寺社、「鎌倉峡」や「百丈岩」などの自然の景勝地なども多く、江戸時代には生瀬から三田を通る大坂街道と、淡河からの湯乃山街道が合流する宿場町として賑わいました。

町内の「千苺ダム（千苺貯水池）」は、1919年（大正8年）に竣工した市内最大のダムです。1998年（平成10年）に文化庁の登録有形文化財、経済産業省の近代産業遺産に登録されており、北区北部の給水を担っています。



1932年 昭和7年 月見橋渡り初め式



千苺ダム

有野町 [ARINO-CHO]

行政・商業施設が集まる北神地域の拠点

有野町は、南から大池、唐櫃、有野、二郎へと有野川流域に沿って開けた地域です。昭和3年の神有鉄道（現在の神戸電鉄）の開通により、急速に人の往来が増え、都市文化が浸透しました。その後、東大池、唐櫃台、有野台、藤原台、北神星和台などの大規模な住宅団地が開発されました。北区北部の中心地として、岡場に行政施設や商業施設などが集積しており、令和元年度には市内初の同一区に二つ目の区役所として北神区役所が開設され、北神図書館やこべっこあそびひろばが整備されています。

一方で、伝統ある仏閣や神社が各地に現存しており、摂津国有馬郡の一の宮であった「有間神社」をはじめ、二郎の「大歳神社」、平清盛ゆかりの「多聞寺」などが有名です。また、農業では、大正時代から生産が始まったと言われる二郎地区のイチゴ栽培が有名で、1月～6月頃までイチゴ狩りと沿道直売が行われています。



1988年 昭和63年 北区二郎いちご狩り



北神区役所

八多町 [HATA-CHO]

広域道路網の拠点となる都市近郊農業のまち

八多町は、南・西・北の三方を山に囲まれ、八多川・屏風川沿いを中心に、灘五郷の酒米どころ、米作り本位の農村として発展してきた地域です。現在では、中国道と山陽道、新名神が交わる神戸ジャンクション、山陽道と六甲北有料が交わる神戸北インターチェンジができたことで広域的な道路網の拠点となり、都市近郊の農村地域に姿を変えています。

1994年に市内唯一の茅葺屋根の地域福祉センターとして整備された「八多ふれあいセンター」は、町民の憩いの場として利用されています。

2023年4月には、北区では初となる義務教育学校「八多学園」が開設され、外国語やICTを学ぶ「グローバル・コミュニケーション力の育成」、農業や歴史を学ぶ「豊かな地域資源を活かした探求学習」など、特色ある学校づくりに取り組まれています。



1973年 昭和48年 八多の農村風景



八多ふれあいセンター

大沢町 [OZO-CHO]

四季を感じられる農業のまち

大沢町は、加古川水系の大沢川、武庫川水系の善入川が流れ、両河川の分水嶺となっています。その川沿いに広がる平坦部を中心にのどかな田園風景が広がり、高台にある光山寺からの景観は、「神戸らしい眺望10選」にも選ばれています。

町内最大の集客施設「神戸フルーツ・フラワーパーク大沢(1993年オープン)」が2017年に市内2か所目の「道の駅」として生まれ変わり、2023年には市内4か所目の「BE KOBE」モニュメントが完成しました。

また、四季を通じて旬の食材が手に入る直売所や食堂が併設された「FARM CIRCUS」は地産地消を楽しむ施設として連日多くの人で賑っています。



1913年 大正2年 田植え風景



道の駅 神戸フルーツ・フラワーパーク大沢 BE KOBE

淡河町 [OGO-CHO]

古き良き日本の風景が残るまち

淡河町は、南に丹生・帝釈山系を望み、町の中央を淡河川が東西に流れ、その流域に平地が広がっている地域です。江戸時代には湯乃山街道の宿場町として栄え、奈良・京都との文化交流もあったと伝えられるとおり、町内には石峯寺にある「薬師堂」や「三重塔」、「南僧尾観音堂」、淡河八幡神社の「御弓神事」などの貴重な文化財や伝統行事が数多く残されています。農業では、食用米・酒米とともに、「新鉄砲ゆり」や「チューリップ」などの花の栽培も盛んです。

2003年には政令市では初となる「道の駅」がオープン(その後、2019年にリニューアル)、2017年には北区初の里づくりの拠点施設「淡河宿本陣跡」がオープンし、地域の農産物や農村での暮らしを知る拠点となっています。



1987年 昭和62年 石峯寺(しゃくぶじ)周辺の風景



淡河八幡神社の御弓神事

長尾町 [NAGAO-CHO]

田園と住宅地が調和する歴史あるまち

長尾町は、神戸市の最北部に位置する小高い丘に囲まれたのどかな田園地域と丘陵地帯に開発された住宅団地と産業団地が混在する地域で、弥生時代から人々が居住していたと考えられています。町内の文化財としては、「多聞寺」にある仏像3体が国の重要文化財に指定され、「熊野神社の獅子舞」も伝統神楽として伝承されています。また、2019年に地域の古民家を再生した「ふれあいの里 おくっちょ」がオープンし、地域の交流拠点・憩いの場として町内外からの利用者が集っています。

一方、神戸リサーチパークとして開発されてきた3団地(鹿の子台・上津台・赤松台)は、人口定着、企業立地が進んでおり、特に、上津台のイオンモール神戸北、神戸・三田プレミアムアウトレットは、多くの人を訪れるエリアとなっています。



1946年 昭和21年 太陽と緑の道



ふれあいの里 おくっちょ



1960年 昭和35年 有馬温泉会館竣工



国鉄道場駅



1974年 昭和49年 旧川原村通り



1974年 昭和49年 上谷上農村歌舞伎



みんなが応募してくれた写真を紹介するよ!

歴代受賞作からキタールさんが選ぶ「フォトコンセレーション」

キタールさんセレクト フォトコンテスト 2021-2022

北区のマスコット「キタールさん」



KOBE 北区制

50周年

記念事業

北区は、自然豊かな山林地域とともに、歴史ある農村や宿場町を残し、新たなニュータウンが生まれることで、特有の景観や魅力がつけられてきました。

この素晴らしい北区を将来につなげていくために、改めて区民の皆さまが北区に対しての誇りを再認識し、まちや人が活気を取り戻すことを願って、「北区制50周年記念事業」に取り組んできました。

記念事業の 5つのテーマ

1 残そう“これまで”

北区制が開始されてから50年を迎えますが、北区には古くは千年以上の歴史や文化が残っています。先人達が残してきたモノやコトを後世にも引き継いでいきましょう。

2 創ろう“これから”

未来の北区をつくるのはこれからの子ども達。一方で、人生100年ともいわれる今の時代。老若男女、全ての世代が思い思いの未来を描ける北区をつくりましょう。

4 育もう“自然”

北区の最大の特徴ともいえる「緑豊かな自然や環境」。「まち、さと、やま」が組み合わせる美しい北区らしい景観を、子ども達にとっての「故郷の景色」として育てていきましょう。

3 繋げよう“ひと”

阪神・淡路大震災から20年をきっかけに「BE KOBE」という言葉が生まれました(北区内にもモニュメントあり)。その意味は「神戸の魅力は人である」。北区においても人の繋がりを大切にしていきましょう。

5 活かそう“こせい”

自然、文化、農業、温泉、坂道。北区には、たくさんの個性があります。この個性を魅力と捉えて、「まちあるき」や「まちあそび」、活動の資源として活かしていきましょう。

Index

- 01 | オープニングイベント P15
1年間、皆さまと一緒に作りあげていくプロジェクトとして、北区制50周年記念事業が始まりました
- 02 | きたくろす P17
北区のなかで「まちを楽しむ」ことを実践されている方々との交流を促すトークセッションです
- 03 | きたきたまつり P23
4年ぶりの開催となった2023年は、北区制50周年記念事業として盛大に開催することができました
- 04 | 神戸新聞特別記事 P25
8月1日神戸新聞朝刊に、神戸市北区誕生50周年の特別記事が掲載されました
- 05 | 北区のうわさ30選 P27
8月1日までのカウントダウンでSNSに投稿した50個のうわさの中から30個のうわさを厳選しました
- 06 | てるてるきたく P29
旧兵庫商業高校を舞台に、北区制50周年記念事業を周知しました
- 07 | 北区の歴史を振り返る会 P30
有馬街道や湯の山街道は、国道2号線よりも重要な道だったそうです
- 08 | 北区出身作家によるトークイベント P30
藤原台で育ち、鈴蘭台に通った岸田さんの、笑いあり涙ありの北区の思い出トークでした
- 09 | 時をかける手紙 ～10年後の私へ～ P31
区民一人ひとりの中にあるちょっと先の“これから”を10年後にお返しする企画です
- 10 | 未来を描いた龍が行く P32
北区の“これから”のまちを想う言葉を、50mの「龍の絵」とともに散りばめました
- 11 | 茅葺屋根とふれあう月間×北区制50周年 連携企画 P33
北区の貴重な財産といえる「茅葺」を“これから”の未来へ残していきましょう
- 12 | 記念ロゴマークの活用 P35
北区のあちこちでロゴマークが出現、地域をあげて50周年を盛り上げました
- 13 | 北区の未来を語るつどい P37
“これまで”の50年を振り返り、“これから”の50年を考えます



北区制50周年記念ロゴマーク

キャッチコピー 「5つのテーマと共に明るい未来へ」

デザイン趣旨 事業の柱となる5つのテーマを5本線で表現しました。5つの柱のもと、北区が発展していく様子を表しています。50周年の「0」は北区の北を組み合わせ、北区の歴史や自然、街や温泉などの地域特性を表現しました。中央の隙間は次の100周年に向け未来へつながる未知の扉をイメージしています。

北区制50周年

記念事業

オープニングイベント

2023年(令和5年)3月26日

(於:市立星和台中学校)



○ 第1部

① 開会の演奏

② 開会のあいさつ

③ 記念ロゴマーク発表・記念事業紹介

④ 記念演奏

⑤ 記念演舞

○ 第2部

⑥ 第1回きたくろす

⑦ 閉会のあいさつ

3月26日にオープニングイベントを開催しました。1年間、北区の皆さまと一緒に作りあげていくプロジェクトであることを周知する場として、記念ロゴマークの発表をはじめ、地域からの言葉や演奏・演舞、北区の未来を考えるトーク(第1回きたくろす)など、記念事業はこの日からスタートしました。

ありの台小学校金管バンドによる記念演奏



“地域に愛されるバンド”がモットーの北区内で唯一の小学校の金管バンド。「本当に小学生が演奏しているの?!」と驚くほどの腕前、クイズやダンスも交えたパフォーマンスで、会場を盛り上げてくれました!

未来を描いた龍が行く



鈴蘭台を中心に活動されている久木田さんによる、「こうなったらいいなあ」と思う未来の絵を龍の絵にのせて自由に描くワークショップ。絵巻物は全長50mで、1年間にわたって北区の保育園などを巡りました。

子ども達が楽しめるミニ四駆サーキット

来場した子ども達のためにと、ネットトヨタの方々がミニ四駆のサーキット場をご用意してくれました!子ども達はとても楽しんでいました。また、TOYOTAの燃料電池自動車「みらい」の展示もありました。



北区役所 金本区長



北区まちづくり懇話会 岡田座長

裏話

会場は、2023年度に解体予定だった旧兵庫商業高校跡地を予定していましたが、あいにくの雨天のため、星和台中学校のご協力のもと、場所を変更しました。イベント当日、旧兵庫商業高校に間違えて来られた方をご案内せねばと思い駆け付けました。すると…母校に入れると思って集まってきた卒業生達でプチ同窓会が開催されていました!



兵庫商業高校龍獅團校友会による記念演舞



旧兵庫商業高校で30年以上も前に誕生した部活動。2018年3月の閉校後は統合先である神港橋高校に引き継がれました。過去には、香港やシンガポールなどの世界大会に出たり、中央区の南京町でお披露目もされていたそう。今回、この記念イベントのために、卒業生の皆さまが再結成し、特別な演舞を披露してくれました。演奏と舞いは圧巻でした!



ライブペインティング



神戸にゆかりのある米国テキサス州オースティン在住のアーティスト「イエロー」さんと、神戸市の分別ゴミの啓発キャラクター・ワケトンの作者として有名な「ザ・ロケットゴールドスター」さんのコラボによるライブペインティング。イベント中に徐々にできあがっていく絵が、会場の雰囲気をもっと盛り上げてくれました!

切り紙制作ワークショップ



美術家・伊達さんによるステンドグラス風のデザインを作るワークショップ。色画用紙を折って切るだけの簡単なワークで、おもしろい模様ができあがり、参加者も楽しんでいました。ここでの作品を参考に、「てるてるきたく」のデザインも作成されました。

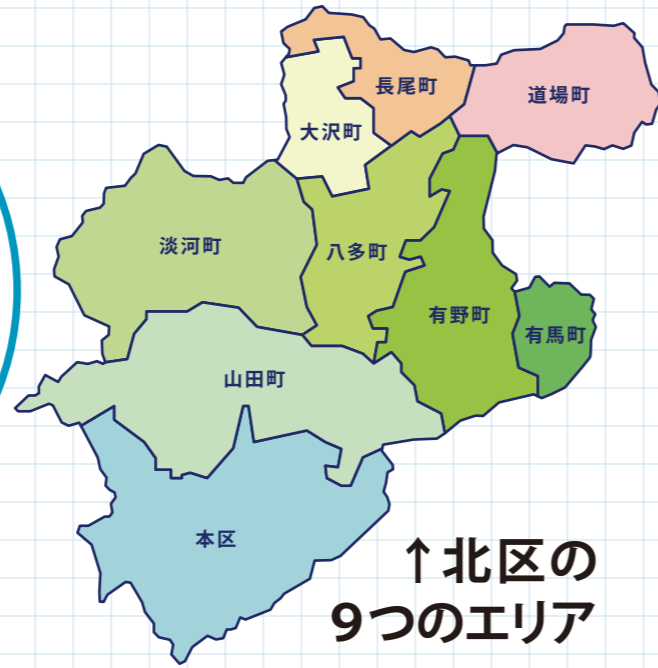
「北神みそ」を使ったお味噌汁

兵庫六甲JA神戸北女性会の皆さまが「北神みそ」のお味噌汁をご用意してくれました。北区の女性農業者の方々が1970年代から作り続けてきたお味噌が1990年より「北神みそ」として商品化されました。神戸が誇る特産物となっています。お味噌汁には地域でとれた野菜がたっぷり入っていました。



「きたくろす」って何？

「きたくろす」とは、北区制50周年をきっかけに、北区で「まちを楽しむ」ことを実践されている方々に、エリアやジャンル、世代を越えて集まっていただき、北区の様々なヒトやコトを紹介しながら、参加者同士の交流を促す、サロン型イベントです。



↑北区の9つのエリア



Talk Session “北区な人々”に出会うイベント

きたくろす



北区の地域プレイヤーが “クロス”する トークセッション

北区は9つのエリアに分かれており、それぞれのエリアで色々な活動が行われていますが、お互いに知り合う機会や行き来することは多くはありません。そこで、北区の様々なエリアの方をクロスさせる形のトークセッションを定期的で開催し、互いにつながりをつくろうという企画です。(“北区な人々”をクロスさせる=きたくろす)

きたくろすにご登壇いただいた 「北区な方々」

<p>第1回</p> <p>からの未来を考える会 小幡 健さん</p>	<p>FAMITTO代表 高木 かおりさん</p>	<p>淡河町地域振興推進協議会 「淡河マツショイ」 武野 辰雄さん</p>	<p>Re.colab KOBE 関西学院大学 水本 葵さん</p>
<p>第2回</p> <p>美術家 伊達 伸明さん</p>	<p>鈴蘭台日々カフェ 島田 香里さん</p>	<p>社会学者 (神戸市地域活性アドバイザー) 松村 淳さん</p>	<p>北区在住 (神戸市北区役所職員) 山田 隆大さん</p>
<p>第3回</p> <p>ごっこあそびひろば 副施設管理者 中川 博文さん</p>	<p>ネットテラス鈴蘭台 ダイハツ神戸北 仲本 真由美さん</p>	<p>エコー・リラ 所長 服部 宏行さん</p>	
<p>第4回</p> <p>シンガーソングライター ミチコさん</p>	<p>神戸電鉄(株) 運輸部 係長 望月 健志さん</p>	<p>magatama field 遠藤 修作さん</p>	<p>大沢町地域事務局 大家 喜八郎さん</p>
<p>NPO法人 北区子育て支援センター/ のらふあーむ 山中 貴代美さん</p>	<p>第5回</p> <p>有野町自治連合会会長 黒田 光昭さん</p>	<p>eu建築設計代表/ (一財)淡河宿本陣跡保存会 代表理事 村上 隆行さん</p>	<p>神戸R不動産 ディレクター/ Lusie Inc. 取締役 岩崎 大輔さん</p>
<p>満月堂 吉村 研一さん</p>	<p>ロックシンガー 福井 秀さん</p>	<p>有馬せんべい本舗 浅井 里枝さん</p>	<p>山田町これから部 山田 富美さん</p>
<p>神戸親和大学教育学部 児童教育学科講師 須増 啓之さん</p>	<p>NPO法人Homika共同代表 幣 賢人さん</p>	<p>第8回</p> <p>(株)クラウドアーキテツク 代表取締役 / 建築家 川上 真誠さん</p>	<p>スラカフェ 藤井 和博さん</p>
<p>なかの工芸(株) 竹歳 真希さん</p>	<p>(株)デザインヒーロー 和田 武大さん</p>	<p>(株)みぎにひつじ 江藤 洋平さん</p>	<p>(株)トーハク 市橋 英紀さん</p>
<p>神戸地域おこし隊 五十嵐 浩輔さん</p>	<p>親塾(おやじゅく) 近澤 麻美子さん</p>	<p>小学校教諭 深田 佳宏さん</p>	<p>第7回</p> <p>(株)トリニティキャリアマネジメント/ ファザーリングジャパン関西 近澤 武生さん</p>
<p>is / 三宮センター街1丁目 商店街振興組合 井上 小矢香さん</p>	<p>(株)好日山荘 広報室 松浦 由香さん</p>	<p>第9回</p> <p>なかの工芸(株) 竹歳 真希さん</p>	<p>(株)デザインヒーロー 和田 武大さん</p>

第9回までに
44名がご登壇
各回のご紹介は次ページ!

2023/3/26
トークテーマ 北区の未来を考える

第1回

人と人がつながる

記念すべき第1回目は、50周年記念事業のオープニングイベントで開催しました。登壇者は、北区に暮らす・働く・活動する4名。「北区の未来」という大きなテーマでしたが、皆さまの活動は、もっと小さなエリアでのこと。4名に共通していたのは、全員が「人と人がつながる」ことを目指されているということです。まさに「きたくろす」のテーマであり、第1回目に相応しい会となりました。

いつでも帰ってこれる場所をつくる

そして、もう一つの共通点が「いつでも帰ってこれる場所をつくる」という意識。北区で生まれ育った人達がいつ戻ってきてもいいよう準備されている姿勢が素晴らしいです。
武野さん：淡河町で活動をしています。淡河町は、人口が減っていますが、移住したい人が300人も待っています。未来は明るいです。
高木さん：鈴蘭台で「本」を通じたにぎわいづくりに取り組んでいます。若い人も高齢の方も交わるまちを目指したいですね。
小幡さん：唐櫃で「住んでいる場所を楽しく！」をモットーに暮らしています。北区は「自然」の存在感がすごい、四季を感じるって素晴らしいです。
水本さん：大学生グループ「リコラボ」で、生物多様性の保全や耕作放棄地の解消に取り組んでいます。人と自然、人と人がつながる機会をつくりたいです。



トークテーマ まちの風景を愛でる

2023/4/27

まちには色々な「顔」がある

第2回目のテーマは「まちの風景」。住宅地、自然、農村が混ざり合う北区は、様々な「顔」をもっています。また、鈴蘭台は、建物の解体や区画整理などの事業も進行中。まちの色々な「顔」を再認識して、まちに親しみ、まちを遊ぶ視点について学ぶ機会となりました。美術家の伊達伸明さんから、まちの風景、解体される建物、地域に暮らす人々の思い出などをつなぎ合わせる独創的なアプローチが紹介され、他の皆さまの地域での営みと重なります。



伊達さん：あまり注目されないまちの風景を大事にしています。そこに暮らす人の話を聞くことで、その面白さは広がります。鈴蘭台は、面白い階段が多いですね。

松村さん：まちづくりの起点として「 commons」を研究しています。まちづくりは、老若男女が集まる、人と人が出会える場所をつくるだけでいいのかもしれない。

山田さん：北区の農村が好きで、休みの日は草刈りしたり、耕したりしています。一方、坂あり、階段ありの鈴蘭台の町も大好きです。

島田さん：日々カフェには高齢の方がたくさん来ますが、元気な方が多い。高齢の方には、社会や人の役に立つ何かの役割を与えることが大切だと思っています。

「まちの風景」は人が集まることで形成される

第2回

地域と企業はWin-Winの関係

第3回

「地域と企業」は、お互いに積極的に関わりを持つことにより、地域にとっては住民の暮らしやすさや幸福度が増し、企業にとってはブランドイメージが上がる可能性を秘めています。両者の関係と可能性について、登壇者の体験談などを交えながら意見交換を行いました。地域の子も達や家族が集う場所を企業がつくる。ジャンルは、福祉、遊び、音楽など様々。人口減少が確実に進んでいく中で、企業が存続し続けるためには、商品売るだけではなく、「地域にしっかり貢献していく、そして、一緒ににぎわいをつくる」こと。

トークテーマ 地域と企業の豊かな関係

2023/6/5

地域に貢献する、一緒ににぎわいをつくる

中川さん：福祉の人間が他分野と交流するのは珍しいんです。きたくろすへの参加はとても嬉しいです。
服部さん：地域からの相談で「北神×三田 元気ハツラツマルシェ」が実現しました。
ミチコさん：岡場のストリートピアノは、実は凄いピアノなんです。音楽がある場所は交流も生まれます。
仲本さん：地域のイベントには積極的に参加して、地域との関係をつくるようにしています。
望月さん：花山駅のリニューアル時は、会場が地域の方であふれかえっていました。



第4回

北区は自然がいっぱい

北区の面積は神戸市9区の中で1番広く、ニュータウンなどの住宅地域もありながら、豊かな自然に恵まれた緑のまちの魅力もあります。北区らしい自然との触れ合い方や生物多様性の保全などについて意見を交わしました。登壇者は過去最大の6名。「学びと体験」「生き物環境」「農村活性化」「キャンプ」「伝統と観光」、それぞれ「北区の自然」に関わるカタチは違いますが、共通しているのは北区のポテンシャルは高く、もっとたくさんの人に知ってほしいということでした。

トークテーマ 北区は自然と一緒に...

もっとたくさんの人に知ってほしい

2023/7/7

遠藤さん：子ども達が農村を学ぶエコツアーを北区のアちこちで開催したいです。
大家さん：20年前から開催している「どろんこバレー」。神戸外からも参加してくれます。
日野さん：天王ダムでのピオトープの管理に、ピクニックがてら、犬の散歩がてら、ぜひ参加してください！
諸田さん：北区には「自然」はもちろん、茅葺や伝統などの「昔ながらの暮らし」が残っています。
安田さん：柏尾谷でキャンプ場を復活させます。専門は「防災」、レジャーだけでなく学べるキャンプ場に！
山中さん：谷上に農を学べる場所をつくっています。食べ物を育てる、道具をつくる「手仕事」を増やしたいです。



2023/8/24

第5回

トークテーマ 使い続ける大切さ～空き家・空き地・伝統・文化～

続けることが文化につながる

北区にも近年増えている「空き家」や「空き地」、北区に昔から残っている「伝統」や「文化」、一見全く違うことのようにですが、どちらも「使い続ける」ことが大切です。これらに関わっている方々で、活動のご紹介と意見交換を行いました。続けることで文化が生まれるんですね。まちづくりでは、つい、新しいものをつくったり、これからどう変化させていくかに目を向けてしまいがちですが、北区にはすでに素晴らしい場所や文化があることに気づかされました。これらをどう使い続けていくか、北区に関わる全員に与えられた命題のようでした。

黒田さん：20年近く自治会に関わっています。北区は住み心地がよい、これを次世代にどう繋げていくかが大事です。
村上さん：淡河町の実家では、家で牛を飼いつつ、宴会場もあるなど、ひとつの建物で複合的な機能を持っていました。
岩崎さん：商業地と住宅地が分離されると、住環境を守る雰囲気が強くなり、「業」を営むのが難しくなりますね。
藤本さん：北区には農村歌舞伎舞台がたくさん残っています。農村歌舞伎を多くの方に知ってほしいです。
小幡さん：北区は土地が広い。空き地をそのまま活かして、色々な植物を植えられたらと想像が膨らみます。



北区は今でも素晴らしい

「お祭り」って何のため?

第6回

地域の「お祭り」はコミュニティづくりやにぎわい創出につながり、北区の将来を考えるうえで重要な視点となります。今回の会場は茅葺屋根の「内田家住宅」。昔ながらの空間が残る場所で、お祭りやイベントについて意見を交わしました。各地で色んなお祭りがありますね。特に若い人にとっては、お祭りの存在を知ってはいても、経緯や目的までは知らないことが多いので、地域の想いを学ぶ良い機会となりました。そして、何より大事なものは、皆さまが口を揃えて言われた「自分が楽しむこと」でした。

2023/10/14

トークテーマ 北区の「お祭り」を考えてみる

何より、自分が楽しむこと

藤原さん：4年ぶりに道場町内を巡る「とりっぴng道場」を開催。まずは、自分達が楽しめないといけません。
吉村さん：東京から帰省して、お祭りに関わる若い子もいるので、「お祭り=地域の同窓会」となればいいですね。
福井さん：20年以上前からバンドをしていますが、北区だけはライブをしたことがない…。元気なうちに北区でやりたい！
浅井さん：有馬で炭酸せんべいを作っていますが、有馬だけでなく、他のエリアともつながりをつくりたいですね。
山田さん：地域の方が3世代、4世代みんなが楽しめるようなお祭りができたらいいなと思います。



大人目線では気づかないこと

第7回

将来の担い手となる子ども達にとって今の北区はどのように映っているのか?子ども達に残していきたい北区の未来とはどのようなものなのか?各地で子どもに関わる活動をされている方々で、それぞれの考えや北区で今後やりたいことを意見交換しました。大人目線では気づかないことも多々あります。テーマは「子ども」でしたが、地域、部活動、交流拠点、アート、公園など話題は多岐に展開し、まさに「北区な人々」が「クロス」されて、登壇者同士が楽しんでいました。共通していたのは「子どもが集まる場所をつくりたい」こと。



近澤(武生)さん：子どもを元気にするにはまずは親から。笑顔の父親を増やす活動をしています。
近澤(麻美子)さん：ママ友からの相談で「親塾」をしています。学校教育が小さくなる時代、地域に子どもの拠点がほしいですね。
深田さん：おばあちゃん、お母さん、子どもが同じ小学校出身みたいな地元感が大好きです。
須増さん：大学では教員を目指す学生に教えています。そんな若い子達の居場所となるお店が増えるといいですね。
幣さん：最近の注目は「公園」です。砂場を耕すとか、公園って可能性を秘めていますよ!

子どもが集う場所づくり

トークテーマ 子ども目線の北区の未来

2023/10/21

駅は交流の場でもある

第8回

日々、多くの人々が行き交う駅は、「電車に乗る場所」だけではなく、「人々の交流の場」となる可能性があります。今回は、「駅」という場所を軸に活動されている方々の活動内容のご紹介と意見交換を行いました。交通や買物などの利便さは、駅によってサービスに差がありますからね。

2023/12/4

トークテーマ これからの「駅」のつかいかた

駅は「まちの入り口」

話に登場した駅は、岡場駅、花山駅、谷上駅、北鈴蘭台駅、新神戸駅。便利な駅、遊び心のある駅、居心地のよい駅、情報のある駅、色んな話題が飛び交いますが、駅は「まちの出口」ではなく「入口」であるべきなんでしょうね。
川上さん：地域にあった建築を目指しています。中央区から北区に来てもらえる流れをつくりたいですね。
藤井さん：北区に暮らしながら、街のにぎわいづくりの活動をしています。駅の名前が有名になれば地域も活性化すると思っています。
坂本さん：谷上駅の「まるたベンチ」をきっかけに北区に関わりができました。駅舎もラッピングしてみたいです笑
井上さん：北区との関わりは谷上駅の「まるたベンチ」。もっともっとベンチを増やして関わりも増やしたいですね。
松浦さん：新神戸駅で登山の拠点を運営しています。歳をとっても、車いすになっても自然と触れ合える環境をつくりたいです。



デザインの色々な役割

第9回

デザインは単に「形や色」というだけではなく、人をひきつけ、動かす力を持っています。例えば、観光やイベントだけでなく、防災や福祉などの地域の課題を見えやすくする、伝わりやすくする、そして行動を起こさせることもデザインの大切な役割です。今回の登壇者は、デザインを広く捉えて活動されている方々。「あなたにとってのデザインとは?」という質問に対して、「地域の邪魔者を宝物に変えるもの」、「特効薬ではなくきっかけをつくるもの」、「当たり前の日常をつくるもの」など、返ってきたのは素敵な言葉ばかりでした。

2024/1/17

トークテーマ 「デザイン」は地域を元気にできるか?

竹歳さん：デザインとは、物事をよりよくすること=「すこやか」。何事も無理をするのは良くないと思っています。もちろん自分自身にも!
和田さん：デザインの前後を大事にしています。デザインは「おせっかい」、生まれ育った北区に勝手に恩返しをしていきます!
五十嵐さん：デザインは「色気」。旨味、趣、魅力を引き出してその気にさせるデザインを心がけています。北区に似合う音楽カルチャーも育てたい。
江藤さん：伝えるではなく、「伝わる」こと。自分本位ではなく、他者の目線。子ども達にも北区の面白さが伝わってほしい。
市橋さん：デザインは「プロポーズ」。空が広い、土地が広い、遊べる空間が多い北区の良さを色んな人にプロポーズしたいですね。

あなたにとってのデザインとは?



裏話

【登壇者からの美味しい差し入れ】
北区にある茅葺民家・内田家住宅で開催された第6回のきたくろすでは、お昼をまたぐ時間だったため、内田家住宅の中にある昔ながらのかまどを使って、北区産の新米を炊いて登壇者や参加者へ振る舞いました!お米は、山田富美さんから提供いただきました。また、満月堂の吉村さんからは「豊助饅頭」が差し入れされました!



北区には「まちを楽しむ隠れた天才」がたくさんいるはず。どんどんつながって、もっと面白い北区にしていきたいと思います。わたしも、あなたも、クロスすることで何かが生まれますよ。



神戸デザインセンター 舟橋 健雄さん
同社代表取締役。阪神・淡路大震災をきっかけに、大学の仲間とNPO法人を立ち上げた。2005年より神戸デジタル・ラボにて、広報やマーケティングなどの業務を担当。北区制50周年記念事業「きたくろす」発案者。

祭

4年ぶりの開催となった北区の名物まつり

5月20日(土)、神戸まつり北区協賛会主催の「きたきたまつり」を開催しました。新型コロナウイルスの影響で4年ぶりの実施となった2023年は、北区制50周年記念事業として盛大に開催することができました。

過去最多となる、およそ46,000人もの大勢の皆さまにご来場いただき、50周年記念の旗やのぼりが立ち並ぶ会場はステージイベントや各種のお店、お楽しみ・体験コーナー等の催しで大いに盛り上がりました。恒例の北区連合婦人会による「総踊り」では、会場が一体となって楽しく踊り、熱気あふれる1日となりました。

エアースライダー、ミニ四駆をコースで走らせて遊ぶお楽しみコーナーは子ども達に大人気!



ポンプ車、救急車のほか、燃料電池自動車やレースカーなど、ワクワクする車が勢ぞろい!



模擬店、体験・啓発コーナー、体力測定などのブースを地域の皆さまが出店されました!



北区連合婦人会による「総踊り」会場の盛り上がりは最高潮に!



ステージイベントはこどもみこしとマーチングバンドによる華やかなオープニングからはじまり、学校や地域のダンスグループや音楽ユニットなどが出演。観客も一体になって楽しみました!



又元喜造神戸市長が登壇。

自然

と伝統 身近に 快適



淡河の田園風景。北区は豊かな自然と農村文化が現存する



昨年10月に行われた農村歌舞伎



の上演会＝北区山田町下谷上、天彦根神社

神戸市北区が8月、誕生から50周年の節目を迎えた。1973(昭和48)年に兵庫区から分区分して以降、道路整備や宅地開発が進み、人口が増えた。快適な環境が整えられた一方で、豊かな自然や農村、伝統的な文化もしっかりと引き継がれている。そんな地域の魅力が今、あらためて見直されている。50周年を節目に活気づく北区の歩みと現状を紹介しよう。

豊かな農作物、農村文化も健在

六甲山の北側に広がる北区は広さ240平方キロ、全市の44%を占める。神戸市全9区の中で最も広く、人口は分区分当時から約2倍に増えた。農業は今も盛んだ。灘の酒の原料にもなる酒米「山田錦」、イチゴ、新鉄砲ユリやチューリップなど多くの特産品があり、地域経済を支えている。

伝統的な農村文化も健在だ。現存する民家で最古の「箱木千年家」を代表とする茅葺き民家が700戸程度点在。多くが住居などとして今も活用されている。か、江戸時代の庶民文化を伝える農村歌舞伎舞台も残る。上谷上、下谷上などの舞台は今も活用され、地域



地域と共に 50周年記念の取り組み

旧兵商校舎をライトアップ トークセッション続々と

50周年の取り組みは、行政だけでなく地域や民間事業者と連携して進めている。

旧兵庫商業高校の校舎を使用したライトアップ企画「てるてるきたく」＝写真下＝や北区で活動する人同士をつなぐトークセッション「きたくろす」も実施中。

北区の50周年を写真と年表で振り返る「あゆみ」が1日、発表された。神戸電鉄は、50周年記念ロゴのヘッドマークを付けた車両を走



4年ぶりに復活する大沢町「どろんこバレー」大会
このほか8月6日には大沢町で、4年ぶりに「どろんこバレー」が復活。10～12月には「茅葺き屋根とふれあう月間」が開催される。歴史、伝統、自然と新たな活動の組み合わせが北区らしい。



50周年特設ホームページはこちら

新北区文化センター



図書館、25年度完成予定



旧区役所跡に文化・交流拠点

北区を代表する地区の一つ、神戸電鉄鈴蘭台駅周辺は、地域の玄関口として発展してきた。さらに快適で安全な暮らしを目指し、今も再開発が進んでいる。2025年度に旧北区役所跡地に完成予定の「新北区文化センター・新北図書館等」＝写真＝は、新たな地域の文化・交流の拠点となる。

また、災害に強く安全な暮らしを目指した駅北地区の区画整理事業も進められている。他の地区でも、北区民の暮らしを支える神戸電鉄が駅舎改築に着手。今年は大池駅、花山駅がリニューアルされた。新神戸駅から谷上駅を結ぶ北神急行が20年に市営化されて以降、運賃値下げ効果もあって利用者

の区画整理事業も進められている。他の地区でも、北区民の暮らしを支える神戸電鉄が駅舎改築に着手。今年は大池駅、花山駅がリニューアルされた。新神戸駅から谷上駅を結ぶ北神急行が20年に市営化されて以降、運賃値下げ効果もあって利用者

北区の魅力発信拠点として存在感を高めている。同市は近年、新規就農支援など、農村の活性化(里山暮らしの推進)にも力を入れている。コロナ禍による田舎暮らしのニーズの高まりもあって、北区への移住希望者も増えつつあるという。

- 北区50年のあゆみ
- 1973年 北区発足
 - 76年 新神戸トンネル開通
 - 88年 北神急行が開業
 - 89年 しあわせの村オープン
 - 95年 阪神・淡路大震災
 - 2001年 有馬温泉に太閤橋が完成。「銀の湯」「金の湯」がオープン
 - 03年 淡河町に市内初の「道の駅」が開設
 - 18年 北区役所が移転(鈴蘭台駅)
 - 19年 北神急行が開業(岡場駅)
 - 20年 北神急行の市営化
 - 23年 茅葺きの「BE KOBE」モニュメントが設置(大沢町)
 - 義務教育学校「八多学園」が開校(八多町)
 - 北区50周年



北区のマスコットキャラクター「キタールさん」



北神担当区長 山本 智康氏

多彩な魅力もっと発信
北区の北部に位置する北神地域は、ニュータウンや昔ながらの農村、豊かな自然環境に加え、日本三古泉である有馬温泉や集客力の高い商業施設など、多彩な魅力を持っています。2019年には、北区で二つ目の区役所として「北神区役所」が設置され、区民サービスの向上と地域活性化に取り組んでいます。北区発足から50年を契機に、より一層北区の魅力を発信していきたいと考えています。



北区長 金本 忠義氏

さらに住みよい北区に
北区は、昭和30年代後半からの宅地開発により人口が急増し、1973年に兵庫区から独立する形で誕生しました。一方、戦後に神戸市域に編入された農村部には、豊かな自然や市の財産とも言える文化財が多く残っています。最近では、神戸電鉄の駅周辺整備や北神急行の市営化などにも取り組み、新・北区文化センターの建設にも近く着手します。50周年を機に、さらに住みよい北区を目指していきます。



北区には、焼きたてベーグルが食べられる茅葺民家があるらしいよ!日本でも屈指の茅葺民家数を誇る北区は茅葺の楽しみ方もよく知ってるんやね。



淡河町は全国有数の新鉄砲ユリの産地やねんて。中でも神戸が誇る「神戸リリイ」が有名☆



神戸を代表するいちごが有野町にあるらしい!二郎いちごやね市場になかなか出回らんから「幻」やね。



兵庫区から分区したとき、区の名前の公募では、なんと「有馬区」がいちばん票を取ったらしいよ!でも、わかりやすいという理由で3番目に多かった「北区」に決まったんやって!

車や電車を使って北区へ来ると、「トンネルを抜けると雪国であった」ってことがあるらしいよ!



北区から西区へとつながる神出山田自転車道の衝原(つくはら)湖近くに、クライマーに人気の編蝠(こもり)谷があるらしいよ!



閑静な住宅街に突如現れるユニークな建物。ここ、広陵町の集会所なんよ!大阪万博EXPO70のカンボジア館が移設されたらしいね。



山の街駅近くにある「やきもち地蔵」の名前の由来、知つとお?お地蔵さまに村人が焼いた餅を供えたところ、喜んだお地蔵さまが願いをひとつ叶えてくれた伝説からきているらしいよ。



北区には三重塔が3つもあるらしい!石峯寺(しゃくぶじ)、六條八幡宮、鎬射寺(かぶらいじ)のことやね。

昭和初期に売り出しが始まった鈴蘭台住宅地。当時のキャッチフレーズは、「関西の軽井沢」らしいよ!



鈴蘭台の茅葺民家・内田家住宅の破風(はふ)に書かれた「水」、火災から守ってください…という願いが込められているらしいよ。



有野町には大きな「水難碑」があるらしい。1938年に起こった阪神大水害の被害の記憶を忘れないように建てられたんやね。

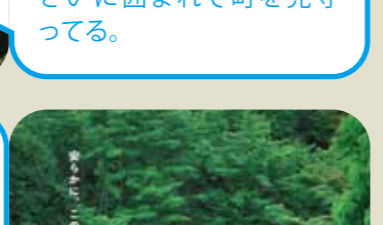


森林植物園は、秋には紅葉の見どころが満載らしいよ!メタセコイヤ並木道も良いけど、おすすめは長谷池周辺。

淡河町にある淡河宿本陣跡の中には、茅葺屋根の神社があるらしいよ。「淡河えびす神社」って言うんやね。(壁も茅葺らしいで)

花山駅前にある「花山東グリーンエレベーター」は、日本初の斜行エレベーターなんやって!(でかすぎひん?)

淡河町にはかつて「淡河城」があったらしいよ!いまま淡河城址としてあじさいに囲まれて町を見守ってる。



有馬温泉の近くにある有馬ます池には恋愛成就の Powerspot があるらしいよ!鱒ます恋こい神社って言うらしい…。



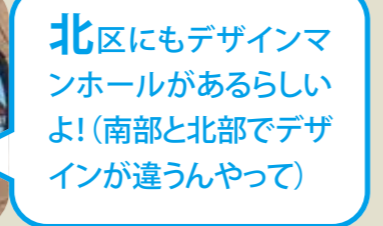
森林植物園は、秋には紅葉の見どころが満載らしいよ!メタセコイヤ並木道も良いけど、おすすめは長谷池周辺。



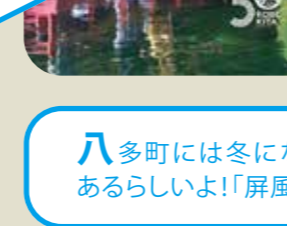
大沢町に、エリンギにしか見えない岩があるらしいよ!「坊主岩」って言うんやね。

北区を走る神戸電鉄の駅で夜の電車を待っていると、ホテルに会えるかも!夏のはじまりがチャンスらしいね。

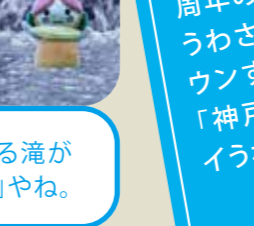
北区には「神戸市立外国人墓地」が美しい森の中にあるらしいよ。外国人居留地の名残で、1867年からの歴史があるんやね。



有馬温泉の近くにある有馬ます池には恋愛成就の Powerspot があるらしいよ!鱒ます恋こい神社って言うらしい…。



八多町には冬になるとカッチカチに凍る滝があるらしいよ!「屏風川(びょうぶがわ)の滝」やね。



大沢町には伝説のどろんこパレーという競技があるらしいよ!(どろんこ、上等)

山田町には自然を「自然のまま」体感できるキャンプ場があるらしいよ!「川の音ベース」やね。

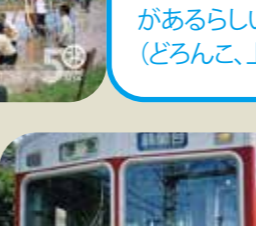
谷上駅の構内にはトマトの自動販売機があるらしいよ!🍅(焼きビーフンもね)

淡河町には、50年以上使われなかった民家を再生した憩いの場「淡河宿本陣跡」があるんよ。江戸時代、参勤交代を行った大名や公家などが泊まれる宿があったらしいね!



有馬の温泉に豊臣秀吉も入った(!?)ことがあるらしいよ。伊能忠敬も、福沢諭吉も、谷崎潤一郎も、グレース・ケリーも!(そしてあなたも…)

神戸電鉄に「北区50周年」ロゴのヘッドマークをつけた車両があるらしいよ!🚆(1年間走るらしい)



北区にはなんだか懐かくなるような田園風景が広がっているらしいよ!



北区には重要な文化遺産の「農村歌舞伎舞台」がいくつもあっているらしいよ!

北区のうわさ30選

6月12日から区制50周年となる8月1日までの50日間、北区公式SNSにて「#北区50周年のうわさ」をつけて、北区の「オモロイ」うわさを毎日投稿し、50周年をカウントダウンする企画を行いました。「神戸市北区」だけのオモロイうわさをご紹介します。

5月~9月 てるてるきたく

解体前の廃校を色鮮やかにライトアップ

2018年3月に閉校となり、100年以上の歴史に幕を閉じた旧兵庫商業高校。長い年月の間、鈴蘭台の象徴的な建物だった校舎は解体されることになりました。「解体前になんとか今の“まちの風景”を地域の皆さまの記憶に残したい」という想いから、北区制50周年記念事業を周知する舞台としてこの校舎を活用する「てるてるきたく」を企画しました。「てるてるきたく」は、美術家の伊達伸明さんのアドバイスのもと、校舎の窓にスタンドグラス風の装飾を行い、19時から23時までの夜間、校舎内側からライトで照らす企画です。5月20日から9月中旬までの約4か月間、“これまで”の思い出を残しつつ、“これから”の北区の未来を照らしてくれたのではないのでしょうか。



美術家 伊達 伸明さん
1964年生まれ。「建築物ウクレレ化保存計画」、「まちの波板の撮影・収集」など、解体される建物、地域の街並み、暮らす人々の思い出をつなぎ合わせる独創的な活動を実践。



① 文字のカット

カラーセロハンを活用して、「北区制50周年」の文字やすずらんの花などをかたどりました。近くで見るとかなりのサイズ感でした…!

② 貼り付け

伊達さん、職員で協力して窓ガラスへの貼り付けを行いました。完成形を想像しながらの楽しい時間でした。



③ 点灯

最初の点灯の際は集まった方々から歓声があがるほどの素敵な仕上がりとなりました!



8/24 (木) 北区の歴史を振り返る会



かつての北区に想いを馳せる歴史のロマン。

地域の皆さまが北区の歴史を振り返ることで、北区の魅力を再認識してもらえるよう、神戸新聞社の大国正美さんを講師に講演会「北区の歴史を振り返る会」を開催しました。

テーマは『古絵図による北区の街道と町の発展』。他区と比べても圧倒的な数を誇り、「宝庫」とも呼べる北区の文化財、北区の大動脈とも言える有馬街道などの道、豊富な資料と大国さんの巧みな話術で、参加された皆さまは聞き入っていました。特に、淡河町から、八多町の屏風・附物・吉尾、有野町の二郎を通して西宮へ抜ける「湯の山街道」は、中世以来、京都から西国に向かう主要道として栄えていたことが国絵図からも読み取ることができ、大きな驚きとともに、北区の歴史に夢とロマンを感じる貴重な時間でした。



神戸新聞社 常務取締役 大国 正美さん
1958年福井市生まれ。神戸新聞社取締役の傍ら、ボランティアで神戸市東灘区にある神戸深江生活文化史料館館長を務め、神戸史学会の雑誌『歴史と神戸』編集を担当。

9/23 (土) 北区出身作家

岸田奈美さんによるトークイベント



9月23日(土)北区ご出身の作家 岸田奈美さんによるトークイベントとサイン会を開催しました! 北区と同じく、50周年を迎える北区社会福祉協議会と、5周年を迎えるベルスト鈴蘭台・北区役所管理組合と、北区地域協働課の三者による共催です。

幼少期から高校時代までを北区で過ごされ、鈴蘭台の高校に通っていた岸田さんは、学生時代からすっかり変わった鈴蘭台の駅前や街並みにとても驚かれていました。

トークイベントではご自身のこれまでの経験にちなんで、鈴蘭台でのこと、ご家族のことなど、明るくお話しされ、会場の皆さまは真剣に、ときに笑いながら、岸田さんのお話に聞き入っていました。その後のサイン会も大行列。一人ひとりと丁寧に向き合い話されながら、イラストを添えたサインをして下さいました。そして、北区役所へは「50周年おめでとう」の文字入りの素敵なサインをプレゼントしていただきました!



北区役所もサインをもらいました!



作家 岸田 奈美さん
神戸市北区出身の作家で「家族だから愛したんじゃなくて、愛したのが家族だった」の著者。幼少期から高校時代までを北区で過ごした。

10年後のわたしへ
元気になっていますか？

これを読んでいるということは、北区は
60歳を迎えたのかな？どんな姿になって

いるのかな。今よりもっと素敵な
まちになっているといいな。

これからも北区をよろしくね。

10年前のキタルさんより



9月14日 神鉄ハイキング

10月1日 神鉄トレイン
フェスティバル2023

裏話

10月1日はお子様連れの多いイベントだったため、当日はなんとブースの前に行列ができるほどでした！
100人近くの方から手紙をお預りしました。休む暇がないほどで嬉しい悲鳴となりました！

「キタルさんのぼすと」お手紙ご返却

2019年の企画「キタルさんのぼすと～令和5年のあなたに向けて～」でお預りした手紙を、今回の企画に合わせて返却しました。ドキドキしながら手紙を受け取られる方、4年前の文字に懐かしさがこみ上げる方、皆さま当時を思い返しながら、楽しんで読んでいただけたと思います。

9月23日 ベルスト鈴蘭台
3階すずらん広場にて

時を かける 手紙 10年後の私へ

北区制50周年の節目に10年後の自分に向けた手紙を募集しました。50周年記念事業のテーマのひとつである「創ろう“これから”」。北区の“これから”は、区民一人ひとりの中にあります。そんな一人ひとりの中にある自分自身の“これから”を「10年後の自分に向けた手紙」として区役所で預かり、10年後にお返しします。

■募集期間：2023年9月14日(木)～2024年1月9日(火)

合計2,162通のお手紙を預りました。
10年後の「再会」を楽しみにしてください。

以下のイベントでもお手紙をお預りしました！



一年かけてつなぎます
未来を描いた龍が行く

希望の未来へアートでつなぐ。

アートを通して、多世代の想いをつなぎ、次世代へ届ける企画です。50mの龍が描かれ、託されました。北区各地でアートワークショップが行われ、様々な方々が未来への想いを、絵や言葉に描きました。龍が、その想いを背中に乗せて、北区各所を巡り、展示を通して各地をつないでいきました。
「こうなったらいいなあ」と思う未来の絵や、北区50歳のお祝いの「ありがとう」「おめでとう」の気持ちなど、心温まる想いがたくさん集まりました。
2024年は辰年ということもあり、この龍は、年始に山田町の「無動寺」の本堂に飾られ、参拝者の皆さまを迎えました。



裏話

【なぜ龍？】
古来よりひとは、自然が持つ巨大な力を龍になぞらえてきました。自然豊かな北区は、龍の力が流れているように感じます。北区の人達が、その力を感ぜられるといいなあと思っています。(企画者談)

北区のいろんな人とつながりました

アーティスト 黒木 拓実さん

龍の絵の制作者。アトリエを北区鈴蘭台に構える。大学在学中から画家として厄祓い・魂・エネルギーをテーマにした作品を制作。現在は兵庫県を中心に、アートを通じた子どもの居場所づくりも行っている。

コウベノモリト 久木田 啓さん

「未来を描いた龍が行く」の企画・運営者。北区鈴蘭台を中心に、多世代で「ともにくらすをおもしろく」するイベント・ワークショップを開催。鈴蘭台を舞台に“ことば”から“まち”を楽しむ「わたしのまちことば」など、イベントを通して参加者がまちとの繋がりを感じ、さらには地域の歴史文化や環境などへ、関心が広がることを目指す。



茅葺屋根とふれあう月間×北区制50周年 連携企画

北区には約670棟の茅葺民家が現存しています。北区での里山暮らしのシンボルとも言える「茅葺」を未来へ残していくため、毎年秋に「茅葺屋根とふれあう月間」と題し、所有者や地域団体のご協力のもと、茅葺を活用したイベントを開催しています。

こちらでは、2023年の「茅葺屋根とふれあう月間」で開催されたイベントを2つ抜粋してご紹介します。

北区農村歌舞伎上演会 11月5日(日)

北区には、茅葺民家の他にも地域の貴重な文化財である「農村歌舞伎舞台」が点在しています。これは全国的にも珍しいこと。

農村歌舞伎舞台では、戦前までは住民による農村歌舞伎の上演や地芝居が盛んでしたが、戦後は演じられる機会が減少していました。

そこで、北区では現存する舞台の保存・継承、農村歌舞伎の演じ手の育成などを目的とした取り組みが行われています。

その取り組みのひとつ、「北区農村歌舞伎上演会」が国営明石海峡公園神戸地区あいな里山公園の農村歌舞伎舞台で開催されました。2023年で24回目となる上演会。2000年から2014年までは、北区役所主催で開催してきました。

その後、2015年からは上演団体が主催となり、毎年秋に上演されています。農村舞台がよく映える晴天のもと、およそ600人が来場し大盛況でした。



「^{にぶ}六甲丹生かぶき」、「神戸すずらん歌舞伎」の2団体が日頃の練習の成果を発表しました。



2023年は50周年を記念して、下記の3つのイベントが同日開催されました。例年とは一味違った上演会。伝統文化を楽しみつつ未来への想いを馳せる、そんな1日となりました。

上演会の司会は、神戸親和大学の学生2名(きたっこ娘)が務めました。



①奈落探検ツアー

農村舞台の下(奈落)を探検するツアー。実際に廻り舞台を動かす体験もできました。



②活かす、活きる江戸フェスタ
テーマは「子どももおとなも楽しめるサステナブルな1日」。地産地消にこだわった飲食店やワークショップブースが並び大盛況でした。



③茅葺と農村歌舞伎上演会を楽しむバスツアー

神戸観光局の「神戸のとびら」との初めての連携企画。山田町にある文化財を巡り、上演会を観覧するバスツアー。歴史や文化の解説付きの有意義なツアーとなりました。



茅葺き体験とふるさとコンサート ～ふるさとのほなしをしよう～ 11月3日(金)

道場町連合自治会、八多ふれあいのまちづくり協議会、NPO法人神戸茅葺きネットワークの三者共催で開催された茅葺イベント。2023年は道場町文化祭と同時開催されました!

「ふるさとカルテット」の皆さまによる演奏、茅葺職人さんによるおはなしのほか、子どもも参加できるかやぶき体験も開催されました。会場は立ち見の観客が出るほどのにぎわい。秋晴れの清々しい晴天の中、茅葺やふるさとについて楽しく学びを深めることができる会でした。



管楽演奏やおはなしなど。当日は立ち見が出るほどのにぎわい。

北区制50周年記念ロゴマークの活用

地域や民間事業者とともに、北区制50周年記念事業を盛り上げていくために、「シンボル」となるロゴマークを一般募集しました。2022年12月中旬から2023年1月末までの約1ヶ月半で、全国から344点の応募があり、厳正な審査と一般投票を経て1点が選ばれました。「50周年記念事業を北区の皆さまと一緒に盛り上げていこう」と願って、この1年間、このロゴマークは誰でも自由に使えるようにして、様々な場面で登場してきました。



裏話 一般公募で募集した記念ロゴマーク。しかし応募数が...

ロゴマークの募集期間は約1ヶ月半。応募数がなかなか伸びず悩んでいたところ、締め切り直前の3日間で、応募総数の半分以上にあたる200件の応募が!!よかった…。審査まで期間が短かったため、いただいた応募作品の整理を遅くまで頑張りました。

チラシやポスターなどへの使用

北区で開催されるイベントや地域のお祭りのチラシ・ポスターなど、たくさんの人の目に留まるものへ掲載していただきました。その情報は、より多くの方に知っていただけるように、50周年特設サイトでもご紹介しました。



ロゴスタンプの制作

山田町にお住まいの手彫りのスタンプづくりが得意な宮本さんに、記念ロゴマークのスタンプをつくっていただきました。宮本さんは北区にある六條八幡宮や無動寺など数多くのスタンプを彫ってこられました。ロゴスタンプを50周年のイベントブースや区役所の窓口に置いたところ、多くの方が押されていました。



裏話 えっ!こんなところにもロゴマークが使われているの?!

2023年は北区のあちこちで野生のサルが出没しました。右の絵は、出沒情報をSNSで発信する際の画像。50周年ロゴマークはこんなところでも使われている!



地域行事の紹介

ロゴマークは、きたきたまつりなどの大きなイベントはもちろん、地域のイベントやお祭りでも使っていただきました。50周年記念事業と一緒に盛り上げていただいた地域のイベントや取り組みをいくつかご紹介します。

第2回すずらんフェスタ《6月25日(日)》



北区連合婦人会の主催により「すずらんフェスタ」が、ありまホールにて開催されました。北区連合婦人会は、北区とともに、設立50周年を迎えました。第1部の記念式典では、来賓からの祝辞と、永年にわたって会長職を務めた方への感謝状の贈呈が行われました。

第2部では、婦人会の皆さまによる民謡や楽器演奏、地域の子供たちによるダンスやよさこいなどが披露されました。子どもから大人まで、多世代の皆さまが日頃の練習の成果を発揮し、会場が一体となって盛り上がりました。

第22回どろんこバレーボール神戸大会《8月6日(日)》

4年ぶりに帰ってきた大沢町の真夏の一大イベント!

「おもしろいことがしたい」という町内の若手有志による発案からスタートし、2023年までに21回開催されてきました。大沢町の人口よりも多くの人が大沢町を訪れることでも有名です。待ちわびた出場者達によって、泥だらけの熱戦が繰り広げられました!!



地域の夏祭り



コロナ禍の規制・制限が緩和され、4年ぶりに多くの地域で夏祭りが開催されました。そのうちのひとつ「泉台夏祭り(8月19日)」のご紹介。会場の泉台小学校の運動場には、飲食やお菓子の屋台がたくさん並び、こどもみこしや盆踊りが行われて大盛り上がり。なかでも、「泉台よさこいチーム」による踊りは迫力満点!

地元の子供たちで結成され、17年続くチーム。6年生のリーダーを中心に上級生が下級生に踊りを教える、子ども同士の教え合いで成長してきたそうです。

赤い羽根共同募金に50周年コラボグッズ登場!

北区社会福祉協議会による赤い羽根共同募金は、戦後、市民主体の民間運動として始まり、地域福祉の推進のために活用されてきました。現在は誰もが安心して暮らせるよう、地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を応援し、災害支援にも活用されています。北区制50周年の2023年は、商品を購入すると売上の一部が募金にあてられる“募金付き商品”に「ロゴマーク入りのトートバック」が登場しました!



北区の未来を 語るつどい

2024年(令和6年)2月24日
(於:ありまホール)



○ 第1部

- ① 開会の演奏
- ② 神戸市長式辞
- ③ 来賓あいさつ
- ④ 地域から未来へのメッセージ
・北区連合自治協議会
・北区連合婦人会
・北区の中学生より

第2部

- ⑤ トークセッション「地域・人・未来」

第3部

- ⑥ 小学生から大学生による演奏・演舞など
- ⑦ 閉会

北区役所・北神区役所では、区民イベントを皮切りに約1年間、北区制北区の未来を区民の皆さまと一緒に

の皆さまに改めて北区への愛着と誇りを感じていただけるよう、3月のオープニング50周年記念事業を実施してきました。記念事業の締めくくりとして、また、その後の考える場として、「北区の未来を語るつどい」を開催。

Talk Session

トークセッション「地域・

人・未来」

今後、北区が楽しくにぎわう「地域」で社会学者の松村さんを進行役に、北区

あり続けるには「人」がますます重要となります。コモンズ(人が集まる場所)を研究されている各地で活動する方々とともに北区の「未来」について意見交換。



有馬町自治協議会
吉田 佳展さん

有馬町自治協議会の会長を約10年務めている。一方で、有馬温泉で明治時代から続く土産物店「吉高屋」の5代目店主でもあり、地域活動、歴史調査を続けながら、有馬温泉の活性化にも取り組んでいる。



大沢町さとのくらしファーム
石田 綾子さん

2018年に夫と子ども2人の家族4人で北区大沢町の里山に移住。野菜や米を栽培し自給的な暮らしを実践しながら、地域の方々と里のめぐみをシェアする「さとのくらしfarm」を夫婦で展開している。



上谷上農村歌舞伎舞台保存会
中西 宏さん

県指定文化財である「上谷上農村歌舞伎舞台」保存会の代表。多角的な視点から舞台の活用にチャレンジしている。また、北区での農村歌舞伎の普及のために、役者としても稽古に動いている。



日々カフェ
島田 香里さん

小部小学校、小部中学校、兵庫商業高等学校と生まれも育ちも鈴蘭台。その生まれ育った鈴蘭台で「日々カフェ」を始めて10年目。誰でも気軽に立ち寄れる地域密着型の萬屋を目指して日々楽しく邁進中。



神戸デザインセンター
舟橋 健雄さん

神戸デザインセンター代表。西鈴蘭台在住で、2022年度は自治会長も務めていた。50周年記念事業の企画委員会の委員として、「きたくろす」の発案者となり、北区で活動する方々の交流を促す。



Facilitator
社会学者
(神戸市地域活性アドバイザー)
松村 淳さん

建築家やクリエイティブ活動をしている人々の研究を行う。クリエイティブ労働者と地域再生、地域創生への貢献、遊休不動産のリノベーションを通じた地域再生が近年の関心事である。

小学生から 大学生による 演奏・演舞など *Performance*



八多太鼓 少年の部「虎打舞(こだま)」

1994年4月に「八多音頭後援会」として発足し、2024年で30周年。和太鼓の力強い音に魅せられた幅広い世代(小学生から成人まで)が集い、八多町の各種イベントやお祭り・文化祭、JAや近隣地区のイベントなどで迫力ある演奏を披露しています。



神戸北ジュニアバンド

神戸市北区を中心に、学校や学年の枠を超えた小学生と一緒に活動している金管バンドです。合奏練習は週に1度2時間程度しかできません。限られた時間や環境の中ですが、地元で愛されるバンドを目指し、日々練習に励んでいます。



神戸親和大学 自井ゼミ(コーラス)

保育園、幼稚園・認定こども園における音楽表現や、小学校での音楽教育において、実践力・専門力のある優秀な保育士・教員を養成するとともに、より音楽に親しむための基礎的な能力と、感性豊かな音楽表現力の習得を目標としているゼミです。



淡河小学校獅子舞

淡河地区の獅子舞は、室町時代から住民らが継承してきた市無形民俗文化財「南僧尾神楽獅子」です。淡河小学校では、2004年頃から地域の方の協力を得ながら、上級生から下級生へと代々受け継がれています。



鶴台中学校吹奏楽部

音楽を通して、人として自分を高めること、そして互いを思いやる『愛のあるサウンド』を奏でることを大切にしています。少人数ですが、大きな心で精いっぱい演奏しています。第70回兵庫県吹奏楽コンクール神戸地区大会で、金賞と最優秀賞を受賞しました。

KOBE KITA

SINCE 1973

【写真出典】神戸アーカイブ写真館、北区四半世紀のあゆみ、フォトコンこうべ北2021・2022入賞作品、40周年記念パネル写真展

【発行】2024年2月 北区役所・北神区役所地域協働課

【おことわり】記事の内容・年代・日付・場所などにつきましては、できる限り確認をしておりますが万一誤り・漏れなどがございましたらご容赦ください。

Instagram



X



北区制50周年
特設サイト



デザイン：五十嵐 浩輔

【北区制50周年記念事業企画委員会】

地域、民間企業、行政が連携しながら
北区制50周年記念事業をすすめるように、
意見交換・情報共有しました。

岡田 孝久（北区連合自治協議会）

新井 忠吉（北区連合自治協議会）

高尾 ひろ子（北区連合婦人会）

前田 弘樹（大和リース株式会社）

水野 正道（大和リース株式会社）

吉田 康大郎（エコーレ・リラ営業所）

片山 健（神戸電鉄株式会社）

村上 智洋（神戸電鉄株式会社）

芝 泰史（神戸電鉄株式会社）

横谷 賢（神戸親和大学）

久木田 啓（コウベノモリト）

舟橋 健雄（神戸デザインセンター）

山中 貴代美（子育て支援センターのらふあーむ）

高山 壽弘（北神地域振興）

小幡 健（からとの未来を考える会）

五十嵐 浩輔（神戸地域おこし隊）

山田 隆大（神戸市北区役所）

田中 俊之（神戸市北区役所）

原田 達二（神戸市北神区役所）

盛田 周吾（神戸市北神区役所）

